



コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



多くの来客でにぎわった軽よん市 & 100円商店街



かばんの自動販売機に設置した東日本大震災義援金コーナー「100円募金」



被災地へランドセルを届ける取組み「カバンストリート with 但馬ランドセル 2011」

商店街活性化のために

走り続ける元気人

経済産業省の「新・がんばる商店街77選」に選ばれた宵田商店街。この商店街をさらに輝かせるために日々奔走する元気な男性を紹介します。

かねさき
兼先正雄さん(46歳)中央町

その昔「三丹一の商店街」と言われた宵田商店街。今や、日本中の商店街が苦境にあえぎ、シャッター通り化が進む中、以前の活気を取り戻すべく商店街は立ち上がりました。

「カバンストリート」を核にした「かばん産地豊岡」の情報発信の取組みが、地域コミュニティの担い手やアイデアと工夫を凝らしながら頑張っている商店街の取組みとして、



▲「これからいろいろな仕掛けます」

兼先さんは話します。宵田商店街では、豊岡の特産品である「かばん」に着目しました。日本有数の「かばん産地豊岡」の知名度を活用し、これをPRすることで、城崎や出石を訪れる観光客を商店街に誘導し、活性化につなげようと考えたからです。

「カバンストリート」を核にした「かばん産地豊岡」の情報発信の取組みが、地域コミュニティの担い手やアイデアと工夫を凝らしながら頑張っている商店街の取組みとして、

昨年からは、宵田商店街に軽トラックを並べ、特産品販売などを行う「軽よん市」を毎月第4日曜日に開催。また、3月には、軽よん市に併せて「100円商店街」を但馬で初開催し、多くの来客でにぎわいました。そして、4月16日には実行委員会で「菓子祭前日祭」を開催。約1万5千人の来客がカバンストリートを埋め尽くしました。「空き店舗も埋まり、ようやく名と実が合ってきました。ここに来れば何かやってくる。そんな期待される商店街でありたい」と兼先さんは力を込めました。

カバンストリート誕生

平成17年にかばん産業と協力し、商店街を「カバンストリート」として位置付けました。同年、商店街の若手で検討したギャラリー「カバンステ

新・がんばる商店街77選

そうした中、平成21年に宵田商店街が、経済産業省・中小企業庁の「新・がんばる商店街77選」に選ばれました。これは、商店街を「カバンストリート」として位置付け、「カバンステーション」を核にした「かばん産地豊岡」の情報発信の取組みが、地域コミュニティの担い手やアイデアと工夫を凝らしながら頑張っている商店街の取組みとして、

昨年からは、宵田商店街に軽トラックを並べ、特産品販売などを行う「軽よん市」を毎月第4日曜日に開催。また、3月には、軽よん市に併せて「100円商店街」を但馬で初開催し、多くの来客でにぎわいました。そして、4月16日には実行委員会で「菓子祭前日祭」を開催。約1万5千人の来客がカバンストリート

広報マンがやってきた!

幼稚園編

17

八条幼稚園

(豊岡)

〈園児53人〉



八条幼稚園は、近くに新しい道路ができ、周りの風景が少し変わりましたが、毎年変わらず園児たちが園外保育で訪れている場所があります。妙経寺の「花祭り」です。

5月6日、園児たちが「花祭り」に参加しましたのでその様子をのぞいてみました。

初めて園の外に出掛けます

園児たちにとって、初めての園外保育で、園の外に出るのも今日が初めてです。先生から注意事項を聞き、2列に整列し、隣の園児と手をつないで出発です。

この日は青空が広がる良い



天気で、お寺までの道のりは、わいわいがやがやととてもにぎやかです。途中、こいのぼりを見つけると「屋根より高いこいのぼり♪」とみんなで合唱が始まります。横断歩道も先生の合図で、ちゃんと手を挙げて渡っていました。



毎年の恒例行事

幼稚園では、毎年この時期に妙経寺の「花祭り」に参加し、お釈迦様の誕生を祝っています。



お寺では、「お釈迦様は良い行い、悪い行いをすべて見ている」などの大切なお話を聞き、園児が順番で仏像に甘茶をかけ、お釈迦様の誕生を祝いました。

ちゃんと突けたかな?

園に帰る前に園児たちは、お寺の鐘を突かせてもらったことになりました。先生から「園まで聞こえるぐらいしつかり突こうね」と言われ、園児たちは、一生懸命に鐘を突いていました。鐘の音は、園まで届いたかな? 最後に、お世話になった妙経寺の方に元氣良く「ありがとう」のあいさつをして、園に帰りました。



顔輪笑の

習いやすい楽器 大正琴で交流

やまびこ(竹野)

竹野南地区公民館の2階から大正琴の心地よい音色が響いてきます。

やまびこは、平成元年に設立された大正琴のグループです。会員は6人で、月2回、竹野南地区公民館で活動しています。

大正琴は、タイプライターをヒントに作られた楽器で、右手で弦を引き、左手でボタンを押し、音を奏できます。

会員の中には、母親と2代にわたり大切に大正琴を使い続けている方もいます。指導講師の清水りかひさんは「大正琴は、使えば使うほど音が琴になじんでくる」と話します。



▲集いに向けて課題曲の練習に取り組む皆さん

発表の場として、毎年「大正琴清恵会の集い」に出場しています(今年度は、6月5日(日)に豊岡市民プラザで開催)。

毎回、大正琴清恵会の集いのテーマに沿った曲を課題曲に選び、本番に向けて練習します。そのため、この時期はいつも以上に練習にも気持ちが入ります。

休憩時間には、集いのために自分たちの大正琴にリボンや飾り付けたりと、本番を心待ちにしています。

最年長(85歳)の門田みさ枝さんは「琴を演奏することで、認知症防止になるし、こうしてみんなと交流することが楽しい」。杉本一子さんは「みんなで合わせて練習すると緊張感があって、毎回楽しみに参加している」と話します。

また、やまびこは、秋に竹野地域の福祉施設で慰問活動も行っています。

入会希望・問合せは、代表の岩崎満寿子(みちこ)さんまで。

☎ 48-10006